

中国古典文化講座

2025

10/25_土

「中国文化の継承と発展」シリーズ②

唐の玄宗と道教

講師 | 高橋 睦美 氏 (大東文化大学文学部中国文学科准教授)

日時 | 2025年10月25日 (土) 14:00~15:30 (13:30~受付開始)

場所 | 立命館孔子学院講義室 (国際平和ミュージアム3階)
+ オンラインライブ配信

講座 概要

玄宗は唐代の9代目の皇帝です。玄宗の治世の前半期は、「開元の治」と称される唐王朝の絶頂期でした。しかし後年、楊貴妃を寵愛し、政治への関心を失い、政治の腐敗が安史の乱が起きる遠因となったとも言われています。楊貴妃とのロマンスは白居易の「長恨歌」にうたわれ、戦乱に荒れ果てた都長安にとらわれた杜甫は、「国破れて山河あり」にはじまる五言律詩「春望」にその感慨を綴りました。そんな玄宗は、実は道教を尊崇し、『老子』に注釈(御注)を書いたことが知られています。『老子』といえは、道家思想の書物であり、そこには、“無為自然”や、“小国寡民”といった無欲を貴ぶ思想が述べられています。唐が最も盛んであった時代の皇帝が、『老子』をいかに解釈したのでしょうか。本講演では、玄宗御注の『老子』解釈の特徴について、資料をもとに紹介いたします。

講師 紹介

2000年4月 東北大学文学部人文社会学科 入学
2004年3月 東北大学文学部人文社会学科 卒業
2004年4月 東北大学大学院文学研究科文化科学専攻博士前期課程 入学
2006年3月 東北大学大学院文学研究科文化科学専攻博士前期課程 修了
2006年4月 東北大学大学院文学研究科文化科学専攻博士後期課程 進学
2011年3月 同単位取得退学
2012年2月 博士(文学)取得

参加無料・事前申込制

※お申込みはQRコードまたはホームページからお申込みください。

